

に埋没していくのではとみられる。

地元メーカーの利益と生産状況

激しい競争にあるため加工収益性は下がりがっぱなしで、日本企業とおなじで高くない。例えば総合企業化に取り組む江西銅業の利益率は、ワイヤロッドで8%、ほか伸銅品は4~5%しかない。利益を生み出す源は安い原料、つまりスクラップだが、高品質化(管でのC&R、板条のHC)が進んでいるため、この利益構造が破たんしつつある。また生産能力は、ほとんどの製品で過剰感がある。管はとくに過剰感が強く、米国でダンピング問題が発生したのもそのため。板条も数年で過剰になるとみられている。過剰となった場合、国内で品質に応じた価格がきちんと浸透すれば、旧設備を廃止するなどして生産能力は自然に減る可能性はある。ただ輸出が急増し、米国でおきたことが日本でも起きる可能性の方が高い。

中国の伸銅品産業の技術

最近の技術開発は、工程短縮技術が中心。①連続鋳造技術(板条/HCm、OFC条、管/C&R)②管の圧伸加工技術(C&R)③連続押出技術(銅棒、型材、線材、鉛フリー合金管や棒など)。開発途上の技術は、高精度圧延機、複雑断面押出、リードフレーム(LF)材など電子用材。LF材では、現在、数世代前の製造しかできていないが、5年後には多ピン用で要求されるレベルの品質は製造できるとみられる。

生産管理面では、歩留まりと環境関係は日本レベルに到達している。ただ材料ロスが製品1トン当たり50~100kgもでるため、まだ問題がある。

日本の今後の対応

中国はまだ最新の技術は開発途上で、生産管理面でも問題をかかえている。これを材料に中国と協力関係を築くべきではないか。ただそれも5年経てば、相手に技術が吸収され協力関係は維持できなくなるかもしれない。現に外資への税制優遇はなくなっている。

提供できるものとしては、技術面ではLF材等の高品質の生産、高性能合金開発(熱処理型など)、環境対応(ゼロエミ、省エネ)。管理面では銅価変動対策、原料/半成在庫圧縮。またスクラップ原料を利用するための材料開発・製造技術などに取り組み有限資源をもっと有効活用をするべきとしている。

銅 真鍮粉

(株) アイコー

代表取締役 宮本 盛徳

本 社 東大阪市渋川町2-9-27
〒577-0836 TEL 06-4307-0600
伊賀アルミセンター 三重県伊賀市西之沢162
〒519-1426 TEL 0595-45-6510

計画中を含む中国の伸銅企業生産能力分布

生産能力	企業数	構成比率%	平均能力t	生産能力の割合% (推計)	生産能力の割合%(推計補正)
1万以下	354	69.4	0.5万	20	32
1万~3万以下	96	18.8	2万	22	18
3万~6万以下	36	7.1	4.5万	18	15
6万~12万以下	13	2.5	9万	13	11
12万~24万以下	6	1.2	15万	12	10
24万より上	5	1	30万	17	14
不明	5	—	—	—	—
累計	515	100	906万	100	100

09年推定生産能力1060万トン、生産量は850万トン(稼働率80%)
表906万トンとの差は1万トン以下の工場で300社以上集計外となっている可能性大
推計補正は、この集計外を組み込み企業数を800社以上とした上で計算されている



7月のアルミスクラップ月刊レポートおよび8月の見通し

橋本金属×アルミ 橋本健一郎氏

新地金輸入は+36%
アルミスクラップ輸入も+54%

概況:前半、中国PMI指数の下落や米雇用統計

の悪化から下げ基調で月初入りするも米新規失業申請件数が減少、中国の金融緩和策継続や4-6月期の米企業の好決算などから下げ止まり
LMEアルミは1700ドル近辺を推移。後半は中国

1-6月期のCPI(物価指数)が想定内だったことや米中古住宅販売件数の増加、ケース・シラー指数の上昇を受けて上昇LMEアルミは2000ドル近辺まで回復した。

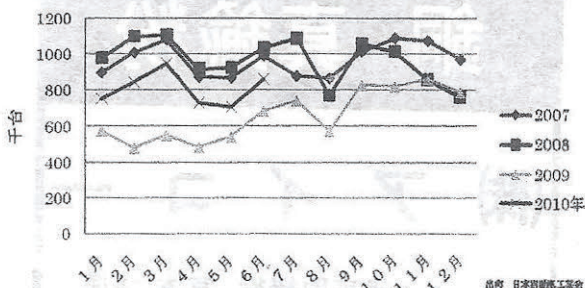
6月の経済指標:日本自動車工業会発表によると自動車生産台数は前月比+21.5%の86万1045台だった。国土交通省発表の新設住宅着工戸数は前月比+14.7%の6万8688戸数であった(前年同期+8.7%)。

貿易指標:財務省貿易統計によれば輸出はアルミ新地金前月比+82.6%の210トン、2次合金は同-14%の1126トン、スクラップは同+14.6%の7833トンだった。輸入は新地金が前月比+36%の18万5055トン、2次合金が同+9.3%の9万8902トン、アルミスクラップは同+53.7%の1196トン、2次合金原料としての需要が多い合金スクラップは+4.7%の7491トンだった。

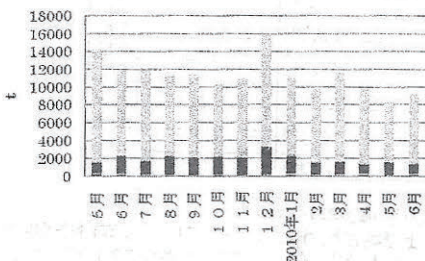
6月の国内指標:日本アルミニウム協会発表の圧

自動車生産台数推移	4月	5月	6月
生産台数	73万1794台	70万8453台	86万1045台
前月比	-22.6%	-3.2%	+21.5%
前年同期	-12.1%	+11.8%	+27.2%

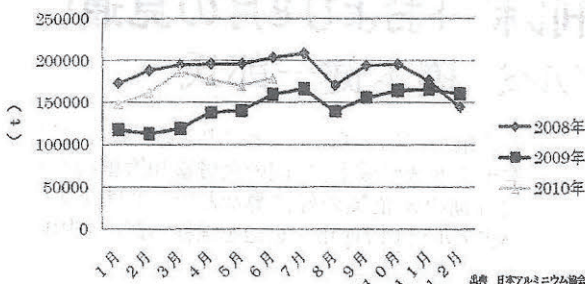
自動車生産実績/計画



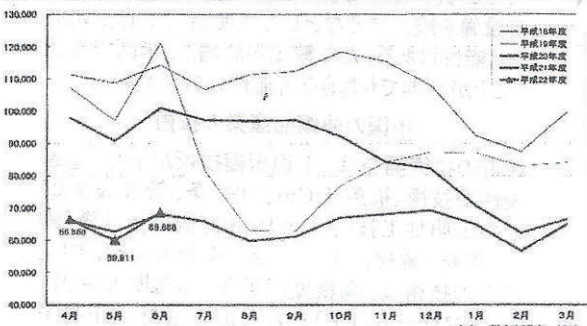
輸出	4月	5月	6月
新地金	248t	115t	210t
前月比	+86.4%	-45.4%	+82.6%
2次合金	1081t	1310t	1126t
前月比	-20.9%	+21.2%	-14%
スクラップ	8562t	8833t	7833t
前月比	-15.5%	-20.1%	+14.6%

09.10年
アルミ輸出推移

アルミ板類・押出生産合計推移

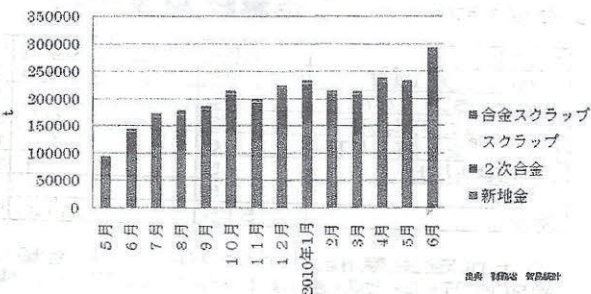


新設住宅着工数推移	4月	5月	6月
日本新設住宅着工数	6万6568戸	5万9911戸	6万8688戸
前月比	+2.4%	-10%	+14.7%
前年同期	-0.6%	-5.1%	+8.7%

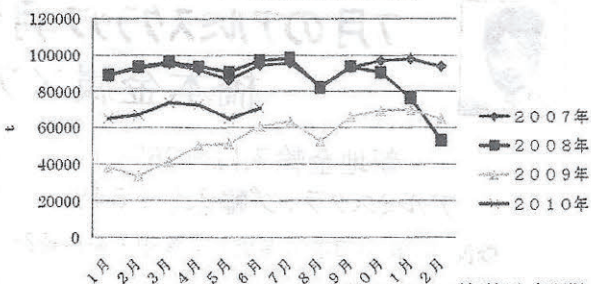


輸入	4月	5月	6月
新地金	15万5278t	13万6009t	18万5055t
前月比	+15.4%	-12.4%	+36%
2次合金	7万6548t	9万452t	9万8902t
前月比	+1.3%	+18.2%	+9.3%
スクラップ	852t	778t	1196t
前月比	+45%	-8.9%	+53.7%
合金スクラップ	7355t	7187t	7491t
前月比	+76.6%	-2.7%	+4.7%

09.10年アルミ輸入推移



アルミ2次合金等生産実績



延品の生産出荷動向によれば板類・押出生産合計は前月比+5.2%の17万8734トンだった(前年同期+14.2%)。日本アルミニウム合金協会発表のアルミニウム2次合金・同合金地金等生産実績は前月比+8.9%の7万875トンであった(前年同期+18%)。

見通し:6月は国内自動車生産台数が前月比+21.5%と大幅増、2次合金生産は前月比+8.9%と7万トン台回復となった。国内自動車生産は9月までは堅調な生産計画が立てられている。圧延・押出品生産数も前月比+5.2%と再び回復基調か。新設住宅着工数が前月比+14.7%の6万8688戸と1カ月ぶり6万戸台の水準に上昇。ファンダメンタルズは合金輸入塊も再び上昇傾向にあること(シグマが2100ドル、AK5Mは2200ドル辺り)から

手当てがしにくくスクラップ原料不足、逼迫が予想される。輸出入は発生減・内需回復(とはいっても輸出依存の自動車生産の回復が中心)を背景に輸入では新地金が+36%、スクラップが+54%と大幅増加。LME価格についてはストレステストの結果が良好だったことから当面は各国の景気指数に一喜一憂する形になるがユーロ高ドル安による資金流入から2000ドルから2200ドル台。価格が需給に左右されるアルミスクラップに関しては9月までの自動車生産が好調な計画が立てられていることやここへ来て頼みの綱であった輸入塊が高騰してきたことから8月は供給不足になるとの思惑から7月後半価格から+10円程度の上げと予測。

鉛

鉛蓄電池6月速報と5月の受払実績 酷暑のおかげで7月以降の需給は高水準

経済産業省より6月の鉛蓄電池の受払速報と5月の受払実績が発表された。

速報による6月の生産(鉛量、以下同)は前年同月比8.6%増の2万666トン、販売は18.5%増の1万9,430トン。生産は8ヶ月連続のプラス、販売は7ヶ月連続のプラスとなった。昨年の6月より生産は急回復したため、6月生産は予想通りプラス幅は1桁に縮まった。一方、販売は2万トンに迫る量を記録、前年同月比も2桁を堅持。結果、在庫は10ヶ月ぶりに2万1,136トンと2万トン台を記録するものの、前年比では8.7%増と1桁に縮まっている。

回復基調が昨年6月頃からでているため、長らく続いている生産と販売にも反動減が出始め、回復基調に一服感がでてきている。ただ足もとの酷暑、秋口以降の自動車メーカーの販売奨励策などで自動車バッテリーの売れ行きは

底堅く推移する可能性がでてきている。

同時に発表された5月の受払実績は、生産が自動車向けは30.6%増の1万2,232トンで7ヶ月連続のプラス、二輪その他は43.1%増の4,597トンで5ヶ月連続のプラス、小型制御弁は89.7%増の793トンで7ヶ月連続のプラス。

販売は自動車向けが24.1%増の1万984トンで6ヶ月連続のプラス、二輪その他は26.7%増の4,287トンで4ヶ月連続のプラス、小型制御弁は5.8%増の742トンで8ヶ月連続のプラス。

在庫は、自動車向けが7.5%減の8,825トン、二輪その他が170.5%増の4,683トン、小型制御弁が13.9%増の5,744トン。二輪他の在庫水準は前年比では大幅に増えた状態にあるものの、金融危機前の水準と比べると、ほとんど差がなく安定している。一方、自動車向けは相変わらず超低水準のままにある。

(トン、自動車用は二輪自動車用を除く、その他を除く)

	生産				販売				在庫			
	車	二輪他	小型	合計	車	二輪他	小型	合計	車	二輪他	小型	合計
5	9,363	3,213	418	12,994	8,848	3,383	701	12,932	9,538	1,731	5,042	16,311
6	13,606	4,816	612	19,034	11,364	4,211	823	16,398	11,912	2,493	5,031	19,436
7	14,550	4,595	600	19,745	12,963	4,431	826	18,220	13,700	2,812	4,975	21,487
8	10,558	3,443	476	14,477	11,696	3,910	682	16,288	12,979	2,542	4,897	20,418
9	12,805	4,364	632	17,801	15,019	4,788	856	20,663	10,534	2,243	4,832	17,609
10	15,757	4,824	715	21,296	14,476	4,643	892	20,011	11,427	2,607	4,878	18,912
11	16,581	4,893	810	22,284	16,863	4,703	901	22,467	11,995	2,960	4,932	19,887
12	16,138	4,944	783	21,865	19,390	4,743	804	24,937	8,821	2,937	5,106	16,864
10年1	13,987	4,615	724	19,326	14,546	4,649	947	20,142	8,335	3,106	5,095	16,536
2	14,595	5,202	770	20,567	14,458	5,295	915	20,668	8,586	4,042	5,123	17,751
3	13,554	5,672	834	20,060	15,188	6,188	892	22,268	6,779	3,836	5,210	15,825
4	13,230	4,570	742	18,542	12,589	4,451	736	17,776	7,567	4,274	5,384	17,225
5	12,232	4,597	793	17,622	10,984	4,287	742	16,013	8,825	4,683	5,744	19,252
前年同月比	30.6%	43.1%	89.7%	35.6%	24.1%	26.7%	5.8%	23.8%	-7.5%	170.5%	13.9%	18.0%
6				20,666				19,430				21,136
前年同月比				8.6%				18.5%				8.7%